

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 「ルールが大切だ」ということを述べると、必ずある角度のついた解釈をされてしまいます。

I、「**※**倫理的にコントロールする」「規範的価値観を共有させる」など、「管理の強化」みたいな方向に誤解されるのです。規範意識を高めるといった表現で言い換えられると、妙に道徳的な行儀の良い子どもを育てようといった主張のように理解されることもあるかもしれません。

ルールを大切に考えるという発想は、規則を増やしたり、自由の幅を少なくする方向にどうしても考えられてしまうのですが、私が言いたいことはそういうことではありません。II 全く逆なのです。ルールというものは、できるだけ多くの人にできるだけ多くの自由を保障するために必要なものです。

なるべく多くの人が、最大限の自由を得られる目的で設定されるのがルールです。ルールというのは、「これさえ守ればあとは自由」というように、「自由」とワンセットになっているのです。

逆にいえば、自由はルールがないところでは成立しません。【A】「何でも好き勝手にやればいい」ということが自由だとしたら、無茶苦茶なことになってしまいます。人間というものは総じて自分の利益を最優先する傾向があるわけですが、「自分の利益のことしか考えない力の強い人」が一人いたら、複数の人間からなる社会における自由はもうアウトになります。この場合、誰か一人だけが自由で、残りの人はみんな不自由ということになりかねません。② ルールの共有性があるからこそ、自由というものが成り立つのです。【B】人間が生きていることの本質は自由であり、欲望の実現です。

ルールとは、それぞれの人びとが欲望を実現するために最低必要なツールなのです。【C】

欲望は、百パーセントは実現できないかもしれない。しかしたとえ一割、二割、自分の自由を我慢して、対等な立場からルールを

守ることでしか、社会のメンバー全員が自由を実現することはできないのです。そうすることによって、残りほとんどの欲望は保障されます。でもルールというものの本質がそういうものだということ、なかなか了解されにくいのです。【D】

そして「秩序性」というものは、最低限のルールをお互いが守ることの中から、結果として出てくるものです。秩序正しさそのものを目的にすると、人々はより多くの自由を我慢しなければならなくなり、息苦しさが増してしまいます。【E】

社会のルールで何が一番大事かということは、いろいろな社会によって微妙に違ってくるかもしれませんが。III、どんな社会にでも大体共通して大事に考えられているルールがあります。それは、「盗むな、殺すな」という原則です。

これは、社会のメンバーそれぞれの生命と財産をお互いに尊重するというルールになっているわけです。

どういふことかという点、自分の気分だけで勝手に人を殺していいということになると、今度は自分がいつ殺されるかわからないということにもなりうるわけです。ですから、「殺すな」は結局自分が安全に生き延びるという生命の自己保存のためのルールと考えられるわけで、別に世のため人のためのルールと考える必要はないのです。

「盗むな」もそうです。盗んでもいいという社会では、自分の持ち物・財産がいつ盗まれるかわからない。「殺すな」が守られない場合と同様、とても不安定な状況になってしまふ。だから、「盗むな、殺すな」という社会のメンバーが最低限守るべきであると考えられているルールは、「よほどのことがない限り、むやみに危害を加えたりせず、私的な<sup>※</sup>テリトリーや財産は尊重し合ひましよう、お互いのためにね」という契約なのです。

③ こうした観点から「いじめ」の問題をあらためて考え直してみる



※(文中のことばの意味)

倫理 : 人間のおこなうべき正しい道。道徳。

ツール : 道具。手段。

テリトリー : 人や動物の力がおよぶ範囲。なわばり。

ミニマム : 最小。

ルーズ : だらしないこと。しまりがなくこと。

腑分け : ここでは、ものごとを細かく分析して調べること。

融通 : その場その場によく合ったやり方をとること。

モチベーション : 行動をおこすきっかけ。やる気。

問1 線① 『ルールが大切だ』ということを述べると、必

ずある角度のついた解釈をさせていただきます」について次の各問いに答えなさい。

(1) 「ある角度のついた解釈」とありますが、「ルールが大切だ」というと、どのように考えられてしまうのですか。文中から二十一字でぬき出しなさい。句読点なども字数に数えます。

(2) 筆者が「ルールが大切だ」と考えるのはなぜですか。それを説明した次の文の [ ] にあてはまるように、文中から三十三字でぬき出しなさい。句読点なども字数に数えます。

ルールは、

だから。

問2

I ~ III にあてはまることばの組み合わせとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア	I	つまり	II	むしろ	III	でも
イ	I	つまり	II	または	III	そして
ウ	I	だから	II	むしろ	III	そして
エ	I	だから	II	または	III	でも

問3

文中から次の文章がぬけています。【A】～【E】のうち、どこにあてはめるのがふさわしいですか。記号で答えなさい。

たとえば交通規則を思い出してください。どんなに急いでいても前の信号が赤ならば必ず止まる。一見すると「早く目的地に着きたい」という欲望は制限されていますが、そうした欲望を多少抑制することによって、誰もが安全に確実に、事故に合うよりはずっと早く目的地にたどりつくことができます。

問4

線② 「ルールの共有性があるからこそ、自由というものが成り立つ」とありますが、社会の人々全員が自由を得るためにはどのようなことが必要ですか。文中から三十二字でぬき出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問5 ———線③「こうした観点」とはどのような考え方でですか。  
最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 誰もがルールを守るべきだという考え方。
- イ ルールは自己保存のためにあるという考え方。
- ウ 世の中の人を守るためにルールがあるという考え方。
- エ ルールは財産を保障する契約だという考え方。

問6 にあてはまることばとして最もふさわしいものを次の  
中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア どうやったらルールによって伝統を守れるか
- イ どうやったら誰もが納得するルールになるか
- ウ どうやったらみんなルールを共有できるか
- エ どうやったら最小限のルールが取り出せるか

問7 ———線④「そういうものに多くとらわれている」とはどの  
ような状態ですか。文中のことばを使って、二十五字以内で答  
えなさい。句読点なども字数に数えます。

問8 ———線⑤「人によってルールに対する感覚がかなり違うと  
いうことを理解しておくこともとても大切です」とありますが、  
なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、  
記号で答えなさい。

- ア ルールに広がりや融通をもたせ、ルールの共有関係を、より  
有効に構築するための作法であるから。
- イ ルールを守ることに抵抗感がない人や縛られることを嫌がる  
人がおり、どちらの考えも大切だから。
- ウ むやみにルールを増やすと集団のモチベーションが下がり、  
最も大事なものを守られなくなるから。
- エ ルールを決める立場に置かれた人には、他の人の考えを受け  
入れる柔軟なバランス感覚が必要だから。

問9 本文の内容に合うものを次の中から二つ選び、それぞれ記号  
で答えなさい。

- ア 道徳的な行儀の良い子どもを育てるためには、ルールを大切  
にし、社会全体の規範意識を高める必要がある。
- イ ルールを決めるときには多くの意見を取り入れ、誰もが守れ  
るものにする一方で、社会の自由が保たれる。
- ウ ルールは世の中の人々の欲望を実現するために必要なツール  
であり、自由の幅を少なくするものではない。
- エ 社会の秩序を保つためにもルールは必要であり、規則を細か  
く設けることで、人々は自由を実現できる。
- オ ルールを決める立場の人は、前例にとらわれずに最小限必要  
なものに絞り込み、融通をもたせるほうがよい。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

六年生のはるか、感情をあまり表に出さない五年生の妹、うみかの考えていることがわからないでいた。ある日、はるかほうみかの逆上がりの練習を見てあげると約束していたが、約束をすっぽかして、親友のミーナの家遊びに行ってしまった。その日、うみかは練習中に骨折をして、入院することになった。そのため、うみかが骨折したのは自分のせいだとはるかとは思っていた。

学級便りの清書用方眼紙の前に、「何でも好きに書いていいですか」と尋ねると、湯上先生は「へ？」と声を上げた。①私が笑わず、じつと見てるのに気づいて、表情を改める。そして、「いいよ」と答えてくれた。

「一学期からみんなそうしてるじゃないか。自分の興味があることを書きなさい」  
「わかりました」

ミーナと一緒に職員室を後にする。

これまでみんなが『銀河』に書いた記事は「球技会のメンバー発表」とか「遠足がありました」とか、そういうこと。行事がある時はいいけど、そうじゃない時は「係の紹介」とか「授業がここまですんでいきます」とか、さらに味気ない記事になる。②だけど、それでも悪目立ちするよりはずっといい。私は、自分も②そういうものを書こうと思つた。——二学期の、実際の今日になるまでは。

「はるか、何書くの？ 興味があることって何？」

「ちよつと、気になることがあつて」

言つてしまつてから、**①** **思わせぶり**な言い方になつたんじゃないかとあわてて否定する。

「ごめん。恥ずかしいから、ミーナにも後で見せるね」

「そうなの？」

案の定、ミーナがつまらなそうに唇を尖らせた。

うみかの入院は結局、夏休みいっぱいしかかった。

だけど、エンデバーの打ち上げにはどうにか間に合つて、私たちはうちのテレビで、スペースシャトルの下から噴き出す炎と空に向かつて消えていく影の中継映像を見た。※毛利さんはこれから一週間ぐらい宇宙にいることになるそうだ。

誰より興奮しているだろうに、うみかはシャトル打ち上げの間、ほとんど喋らず、ただ食い入るようにして画面を見つめていた。

録画した映像を何度も何度も再生して、毎日のニュースでエンデバーのことが報道されるたび、熱心に見入る。ギブスをしていない方の左手が、ぎゅつと、拳を握つて、震えるのが見えた。

あ、泣くのかな、と思つて顔を見ると、うみかの表情が、これまで見たこともないくらい嬉しそうに輝いていた。人間は、別に笑顔じゃなくてもこんなふうに嬉しさを表現できるんだつて初めて知つて、私にも、妹の喜びと興奮がそのまま伝染してしまう。なぜか、私が泣きそうになった。

※お母さんが許可してくれた『6年の科学』を、うみかは自分の『5年』のと合わせて熟読して、私にも『科学』や他の本、新聞で知つたというたくさんのことを教えてくれた。

※アポロ計画から、今回のエンデバー号の打ち上げまでの歴史。毛利さんが宇宙で何をするのか。宇宙と地球、エンデバーの中と日本の小学校をテレビの生中継で繋ぎ、毛利さんが私たち子供に向けて宇宙から授業をしてくれるらしいと聞いて、うみかだけじゃなくて私もわくわくする。

一九八六年の※チャレンジャー号の事故を受けて、今回の計画が遅れたことも、その時、うみかから教えてもらった。知らないうちに唇をきゅつと噛んでいた。これまで興味がなかったから、そんな歴史があつたことだつて私は知らなかった。

机の前で、私は深呼吸して、方眼紙に『銀河』の見出しと、最初

の一行を書き始める。

『現在宇宙に行ってるスペースシャトル「エンデバー」は、「努力」という意味です。』

学校に関係ないことを書くのは、浮く人間の仲間入りかもしれない。だけど、私たちには教室の「ここ」がすべてじゃなくてもいいんじゃないだろうか。教室の机の前に座ってても、それと並行して気持ちももっと遠い宇宙を向いていることだってある。

③ただ文章を書いているだけなのに、途中、何度も息が切れた。自分がすごく恥ずかしいことをしようとしてるんじゃないか、あるいは、真面目ない子に見えることをしてるんじゃないか、それをみんなに見せようとしてるんじゃないかと考えたなら、不安がおなかの底から喉までを、わっと満たす。

でも、私は、これをうみかに読んで欲しい。あの子に教えてもらったことが、刷られてみんなに配られて、学校に認められるものになったんだってことを、見せたかった。

清書用のペンを持ち直す。用意した修正液は、ほとんど使わずに済んだ。一気に書き上げる。④文章を書くのが楽しいなんて、初めて感じた。

完成した『銀河』の原稿を、両手で掴む。見出しを見つめ直す。

『毛利衛さん、宇宙へ』

『無事に※ミッションを終えて帰ってきてくれることを祈っている。』と書いた最後の言葉は、書いた後から頬がかーっとなるくらいで、かっこつけすぎたかもしれないと反省したけど、結局、そのまま残した。

それはたぶん、うみかと、そして私の今の一番の気持ちだったから。

毛利さんが宇宙に行ってるうちに印刷して配って欲しい、と先生に申し出ると、湯上先生は原稿を読んだ後で「わかった。今日配る

よ」と約束してくれた。

ミーナにも、今回は読ませなかった。いつもは、提出するものがある時は事前にお互いのものを読み合い、褒め合ったりする私たちには初めてのことだった。私は⑥抜け駆けをしてしまったような居心地の悪さを感じたまま、帰りの会まで過ごした。

「今日の『銀河』は、はるかさんが書きました。配ります」

前から順に、『銀河』が配られてくる。見覚えのある自分の字が印刷にかけられているのを見ると、死にそうになるぐらいドキドキした。

誰かにかかわれるかもしれない、と覚悟していたし——、もつと言えば、誰かが興味を持って読んでくれないだろうか、感想を言ってくれないだろうか、といい方への期待もかなりしていた。

しかし、みんな『銀河』を、あっさりとは折ってしまいこんでしまう。⑤私の肩から力が抜けていった。

帰りの会が終わり、「一緒に帰ろう」とミーナが席までやってくる。あんなにも読ませなかったことを後ろめたく思っていたのに、私の『銀河』に関するコメントもなかった。なんだ、このぐらいのことだったんだ、と思ったなら、急にそれまで気張っていた自分がバカみたいで、惨めで、ほっとしたけど、それ以上に奥歯を噛みしめたいくらい、悔しかった。

帰ろうと教室を出かけた、その時だった。

「はるかちゃん」と、名前を呼ばれた。

振り返ると、学級委員の柵さんだった。『銀河』に「みんなの『銀河』物語」を書いたあの子だ。普段はほとんど話したことがない。

「今回の『銀河』、面白かった」

大きな眼鏡の向こうの黒目がちな目が、私を見ていた。私は咄嗟には答えられず、目を見開いて彼女を見つめ返す。柵さんが笑った。

「これまでで、最高の記事だよ。毛利さんで一号作っちゃうなんてすごい」

「そう、かな」

「うん」

⑥ 答えながら、頬が熱くなつていく。「ありがとう」と言葉が出るまで長く時間がかかった。身体の真ん中に柔らかな光が灯ったように、さつきまでの嫌な気持ちが消えていく。優しい気持ちが満ちていく。

それは、うみかと見上げた夜空の暖かさどこか似た気持ちだった。記事だけじゃなくて、うみかが褒められたような誇らしい気持ち。口元が勝手にゆるんで、笑顔になつてしまう。

帰った私が差し出した『銀河』を、うみかはじつと覗きこんで、読んでいた。⑦ クラスメートに見せる時より、ずっと、緊張した。うみかから感情たっぷり褒め言葉や感激の涙を期待したわけじゃなかったけど、読み終えたうみかはいつものような無表情だった。

「これ、私のため？」

⑧ 明け透けな言い方で尋ねてきた。

「うん」

「ありがとう」

なんでもっと感動的に反応してくれないんだろうってイライラしたけど、仕方ない、とあきらめる。これがうちの妹で、うみかはこういう子なんだから。

翌日学校に行ったら、湯上先生から職員室に呼ばれた。日直でもないし、呼び出しの理由に心当たりがなくて、おっかなびっくり先生の机まで行くと、方眼紙を渡された。

「また、書いてみないか」

息が止まった。先生が続ける。

「もうすぐ毛利さんが宇宙から帰ってくる。帰ってきたら、そのこととまた一号、書いてみないか」

方眼紙を持つ指に、力が入らなかつた。——嬉しくて。

この時も、うみかの顔が思い浮かんだ。あんなふうな感情の起伏の薄い妹だけど、それでも、私が真っ先に⑧ 嬉しい知らせを伝えたいのは、あの子だった。

( 辻村深月 『1992年の秋空』 一部改変 )

※(文中のことばの意味)

毛利さん …… スペースシャトル「エンデバー」に搭乗した日

本人宇宙飛行士。

お母さんが許可してくれた『6年の科学』

…… 宇宙に興味のあるうみかは、自分の学年の雑誌『5年の科学』だけでなく、『6年の科学』も読みたいと思っていた。

アポロ計画 …… アメリカの、月を調査する計画。

チャレンジャー号の事故

…… スペースシャトル「チャレンジャー」が離陸後すぐに爆発した事故。

ミッション …… 任務。

問1 線①～③のことはについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 思わせぶりな

- ア 本心をかくしたような
- イ かまってほしそうな
- ウ 特別な意味があるような
- エ 不快な気持ちがこもった

② 抜け駆け

- ア 自分だけ先に何かをすること
- イ 自分勝手な行動をすること
- ウ かげで友だちを裏切ること
- エ 誰にも秘密を話さないこと

③ 明け透けな

- ア 遠りよがちな
- イ ぶつきらぼうな
- ウ けがれのない
- エ はっきりとした

問2 線①「私が笑わず、じっと見てるのに気づいて、表情を改める」とありますが、なぜ先生は表情を改めたのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 私には冗談が通じないようだと感じたから。
- イ 緊張している私を落ち着かせようとしたから。
- ウ 私が真剣にたずねているとわかったから。
- エ 宇宙のことを書くなら応援したいと思ったから。

問3

線②「そういうもの」とはどのようなものですか。それを説明した次の文のⅠ・Ⅱにあてはまることを、それぞれ文中から四字でぬき出しなさい。

たとえ Ⅰ 記事であっても、 Ⅱ しないもの。



問4 ———線③「ただ文章を書いてるだけなのに、途中、何度も息が切れた」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人から真面目でいい子に思われようと記事を書いていることが、恥ずかしくなってきたから。

イ 学校に関係のない記事を書いていたので、それがみんなにどう思われるのか心配だったから。

ウ 自分はそれほどくわしくない宇宙のことを記事にするので、調べるのに必死になっていたから。

エ 宇宙にくわしいうみかにもこの記事を認めてもらいたいというこことばかり気にしていたから。

問5 ———線④「文章を書くのが楽しいなんて、初めて感じた」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ほとんど失敗することなく書き上げることができたから。

イ みんながほめてくれる記事に仕上がると思ったから。

ウ 広大な宇宙のことを想像しながら書いていたから。

エ 自分が本当に書きたいと思うものを書いていたから。

問6 ———線⑤「私の肩から力が抜けていった」とありますが、この時の気持ちとして最もふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 安ど                   イ あきらめ                   ウ 困わく

エ 不満                   オ 落たん                   カ なげやり

問7 ———線⑥「答えながら、頬が熱くなっていく」とありますが、この時の気持ちとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 記事について誰にも何も言ってもらえず落ち込んでいることをやさしく気づかっってもらい、恥ずかしい気持ち。

イ 誰も記事を読んでくれていないと思っていたのに、興味を持って読んでくれた人がいて、恥ずかしい気持ち。

ウ うみかのために書いた記事を読んでくれたことで、宇宙に興味をもつてくれたことを感じて、うれしい気持ち。

エ 宇宙の記事をほめられたことが、宇宙のことを教えてくれたうみかまでほめられたように感じて、うれしい気持ち。

問8 ———線⑦「クラスメートに見せる時より、ずっと、緊張した」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 宇宙にくわしいうみかに読んでもらって、良い記事に仕上がったのかを確かめたかったから。

イ クラスメートとちがって家族であるうみかなら、自分に素直な感想を言ってくれると思ったから。

ウ うみかに読ませたいと思って書いた記事だったので、うみかの反応が何より気になったから。

エ 学級便りに学校に関係のないことを書いたことを、ばかにされないかと気にしていたから。

問10 はるかとうみかの関係を説明したものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 毛利さんのことだけで新聞記事を一号書きあげ、周りの人からも認められたはるかのことを、うみかは心の中で誇りに思っている。

イ うみかの気持ちに寄りそい、宇宙の記事を書いたことで、はるかは感情がわかりづらい妹をそのまま受け入れられるようになった。

ウ はるかはうみかに喜んでもらいたいと思って妹の好きな宇宙の記事を書いたが、うみかは骨折の原因を作ったはるかのことを許していない。

エ はるかは自分が書いた宇宙の記事をみんなからほめてもらえたことで、宇宙のことをくわしく教えてくれたうみかに感謝している。

問9 ———線⑧「嬉しい知らせ」とは具体的にはどのようなことですか。三十字以内で答えなさい。句読点などは字数に数えま

す。

③ 次の慣用句の（ ）にあてはまることばを下から選び、完成させなさい。またそれぞれの意味をあとから選び、記号で答えなさい。

① ( ) をただす

② さじを ( )

③ 目を ( )

④ 筆が ( )

⑤ ( ) が合う

すべる	うたがう
なげる	むし
ほそめる	うま
ひろう	えり
はしる	そで

ア 書いてはいけないものを書く。

イ うれしさにほほえむ。

ウ 気持ちをひきしめる。

エ 気が合う。

オ 見こみがないので見はなす。

④ 次の——線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

① トウカクを現す。

② 学校が地域の人たちにカイホウされている。

③ 話のホンスジをとらえる。

④ 排気ガスがカクサンする。

⑤ 両親に名前のユライを聞く。

⑥ 毎日納豆を食べる。

⑦ 一四〇周年の記念碑が建立された。

⑧ 平安時代の巻物を見る。

⑨ 空に大輪の花火が上がる。

⑩ しずくが垂れる。

これで問題は終わりです。